

知的障害特別支援学校 小学部第4学年 算数科 学習指導案

[全体計画]

日時	2019年**月**日（*曜日） 10:40～11:25	場所	小学部4年*組教室
指導者	T1〇〇		
単元名	「ちょうどのお金を出そう」		
単元設定の理由	<p>本グループは、男子1名、女子2名で構成されている。本グループの児童は、言葉による指示を理解して活動に取り組み、授業時間中は着席して学習することができる。不正解を恐れ、自ら解答を書いたり発表したりすることを戸惑ってしまう児童がいるが、繰り返し学習することで自信が高まると、自ら挙手して答えることができる。分からないことがあると下を向いてしまったり、手を止めてしまったりする児童がいる一方で、分からないことを自ら伝えられる児童もいる。学習に対する意欲は高く、ゲーム活動や具体物を使った学習に対して特に主体的に取り組む姿が見られる。算数科の実態としては、すべての児童が繰り上がりのない1位数+1位数の足し算をすることができる。また、今までに数を5ずつ、10ずつにまとめて数える学習を行ってきた。金銭に関する実態としては、すべての児童が硬貨の金種を理解している。金銭には興味をもっているが、校外学習で金銭を取り扱う場面では、教師から指示された硬貨を用意する児童や、自ら硬貨の組み合わせを考えて用意する児童もいた。すべての児童が、同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。しかし、指定された金額を種類の異なる硬貨を組み合わせて用意することや提示された金額の硬貨の組み合わせを複数用意することなどが課題である。</p> <p>特別支援学校小学部学習指導要領に示された算数科における、「3 指導計画の作成と内容の取扱い」の記載の中で、(2)ーオー(ア)「内容の「A数と計算」の指導に当たっては、次の⑦についての金銭の価値に親しむことを取り扱うものとする。」とあり、「⑦金種の理解ーa 金種を用いる。ーb 様々な種類の貨幣のもつ価値を理解する。」と示されている。特別支援学校学習指導要領解説各教科編（小学部）では、上記について、「児童の数理解に配慮し、生活科との関連を図りながら、金銭処理に関する指導を行うようにすることである。ここでいう金銭処理とは、例えば、(中略) 値段にちょうどのお金を用意して買うこと（数理解が10までの児童であれば、値段が374円のときに、$3 \cdot 7 \cdot 4$などの数字の並びとして見ることや各桁に対応する金種を覚えて、百円硬貨を3枚、十円硬貨を7枚、一円硬貨を4枚用意すること）」と述べられている。本単元では、各桁に対応する金種を覚えて、ちょうどのお金を用意することをねらいとしている。</p> <p>指導にあたっては、まず最初に1円硬貨と5円硬貨のみを使用し、提示した金額分の硬貨を取り出す学習を行う。徐々に、10円硬貨と50円硬貨のみでの学習、100円硬貨と500円硬貨のみの学習に展開するとともに、10円や100円などになる硬貨の組み合わせが複数あること、買い物などの場面では、少ない枚数での硬貨の組み合わせの方がより扱いやすいことなどに気付くことができるようにする。そして6種の硬貨を組み合わせた学習では、より確実に合計金額を求めたり、確かめたりすることができるよう、補助具として位取り表を取り入れる。補助具を活用することで、一人でできることが増え、より主体的に学習に取り組むことが期待できる。学習のまとめとして、店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習を行い、値段を見て同じ金額を出す活動や児童同士で金額が合っているかを確かめ合う活動を取り入れていく。その際には、実際の硬貨を用意して行うことで、金銭を大切に扱うことについても学習していく。今後、校外学習や生活の中での買い物などで、自分で金銭を扱う場面がある。本単元の学習を通して金銭の取り扱いに慣れ、スムーズにお金を支払うことができるようにしたい。また、模擬買い物学習を通して、金銭の大切さや、買い物でのやり取りの仕方を学習することで実際に買い物ができる喜びを味わい、実生活で生かせるようにしていきたい。</p>		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の硬貨を組み合わせでちょうどの金額を用意することができる。 (知識及び技能) ・提示された3桁の金額の硬貨の組み合わせを複数考えて用意することができる。 (思考力・判断力・表現力等) ・様々な硬貨を使ったお金の出し方を生かして、買い物をすることができる。 (学びに向かう人間力、人間性等) 		

指導計画 (10時間扱い) 本時は 第8時	第1時	1円・5円を使ってぴったりのお金を出そう・・・・・・・・	1時間
	第2時	10円・50円を使ってぴったりのお金を出そう・・・・・・・・	1時間
	第3・4時	100円・500円を使ってぴったりのお金を出そう・・・・・・・・	2時間
	第5～7時	ぴったりのお金を出そう・・・・・・・・・・・・・・・・	3時間
	第8～10時	買い物をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・	3時間
			(本時は1／3時間目)

[本時の指導]

1 全体目標

- ・複数の硬貨を組み合わせでちょうどの金額を用意することができる。(知識及び技能)

2 児童の実態及び個別目標

児童 学年 (性別)	児童の実態	個別目標	自立活動の 目標
A 4年	<ul style="list-style-type: none"> ・硬貨の金種を理解している。 ・位取り表を使って、500円以下の金額を読み取ったり表したりできる。 ・位取り表を使わず、1円硬貨のみ、10円硬貨のみ、100円硬貨のみの場合の合計金額を答えることができる。 ・指定された金額を種類の異なる硬貨を組み合わせで用意することは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10円硬貨、1円硬貨を組み合わせで100円未満のちょうどの金額を用意することができる。 	
B 4年	<ul style="list-style-type: none"> ・硬貨の金種を理解している。 ・位取り表を使って、500円以下の金額を読み取ったり表したりできる。 ・位取り表を使わず、1円硬貨のみ、10円硬貨のみ、100円硬貨のみの場合の合計金額を答えることができる。 ・10円硬貨、5円硬貨、1円硬貨で組み合わせられた金額を答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10円硬貨、5円硬貨、1円硬貨を組み合わせで100円未満のちょうどの金額を用意することができる。 	
C 4年	<ul style="list-style-type: none"> ・硬貨の金種を理解している。 ・等価関係を理解している。 ・6種類の硬貨を組み合わせでちょうど金額を出すことができる。 ・指定された金額を答えるとき、位を間違えて答えてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された1000円未満の金額の硬貨の組み合わせを複数用意することができる。 	

3 展開

※形態の表記は 全体：全，グループ：グ，個別：個

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て（各Tの役割等）※評価は□で囲む
全 (3)	<p>1 始めの挨拶をする。</p> <p>2 本時のめあてと学習の内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>めあて</p> <p>ぴったりのお金を出して、 おかいものをしよう！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p><small>がくしゅう</small> <small>ないよう</small> 学習の内容</p> <p>①ウォーミングアップ ②みんなでやってみよう ③かきものをしよう ④ふりかえり</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・話に集中ができるよう、机上に何も置かないよう言葉をかける。 ・正しい姿勢で挨拶ができるように言葉かけをすることで、児童が学習の始まりを意識できるようにする。 ・児童全員が静かになってから話すようにする。静かにならないときには、「じゅぎょうのやくそく」を提示する。 ・児童が読むことで、本時の学習内容が分かるようにする。 ・本時のそれぞれの児童の目標をミニホワイトボードを使って伝えることで、一人一人が目標に取り組みやすいようにする。 ・活動順に示された学習内容を教師が読むことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ・どの活動を行っているか分かるように、活動ごとにその学習内容の横にマークをつける。
個 (6)	<p>3 ウォーミングアップ</p> <p>(1)等価関係を確認する。</p> <p>(2)ひとりでやってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬硬貨を使ってちょうどの金額を用意する。 (A, B, C) ・提示された模擬硬貨を見て金額を答える。(C) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに模擬硬貨を児童と貼りながら確認する。 ・自ら活動に取り組めない児童には、「やってみよう」、「分からないときは一緒にやろう」と言葉かけをする。 ・不正解の問題は「もう一度考えてみて」と言葉かけをし、回答することが難しいときには位取り表を使って解くように促す。 ・自分の問題に集中して取り組めるよう、一人一人異なる問題にする。 ・A・Bには、1円・5円・10円・100円の硬貨を組み合わせた問題を提示する。 ・A・Bには、位取り表に模擬硬貨を並べることで解答できるようにする。 ・Cには全種類の硬貨を使用する問題を提示する。 ・Cが位取りを間違えているときには、それぞれの硬貨がどの位に当てはまるのかを確認できるように、位取り表を提示する。その後、位取り表を使用せずに再度問題を解くようにする。 ・全問正解したら、プリントがんばりシートにシールを貼り、ちょうどの金額を用意できたことや提示された金額を答えられたことを覚えていたことを称賛する。

<p>全 (13)</p>	<p>4 みんなでやってみよう</p> <p>(1) 687円をつくる。</p> <p>① 1人で考える。</p> <p>② 3人で話し合う。</p> <p>(2) 確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら活動に取り組めない児童には、「やってみよう」、「分からないときは一緒にやろう」と言葉かけをする。 ・A・Bには、模擬硬貨を並べながら687円をつくれるように位取り表を提示する。 ・つくった687円が合っているかを児童同士で確認するよう、「友達のもののは合ってるかな」などと言葉かけをする。 ・児童同士で確認した解答をホワイトボードに掲示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C 提示された金額の硬貨の組み合わせを複数用意している。 (知識・技能) [観察]</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示したお金を位取り表に並べ、全員で確認する。 ・同じ金額でも使う金種の組み合わせが複数あることを、複数の解答がでたことで確認する。
<p>全 (20)</p>	<p>5 かいものをしよう</p> <p>(1) ルールを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かいもののルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちよ^うどのお金を出す。 ・お金は大^{たいせつ}切につかう。 </div> <p>(2) 模擬買い物をする。</p> <p>① 買い物をする。</p> <p>② 他者評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「かいもののルール」を読むことで、何に意識して学習するかが分かるようにする。 ・客と店員の順番を児童と話し合いながら決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら商品が選べるよう、児童が興味のあるものを商品とする。 ・AとBは位取り表を使わずにちよ^うどの金額が用意できるように100円未満の商品を提示する。 ・Cは1000円未満の商品を提示する。 ・見ている児童は、買い物でのやりとりの様子やお金の扱い方に注目するよう、「見てよう」と言葉かけをする。 ・店員役の児童が金額を確認した後、見ている児童に位取り表を使って金額が合っているかを確認できるようにする。 ・客と店員でない児童には、「かいもののルール」の2つの観点から他者評価ができるよう、「ひょうかシート」を用意する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A 支払いの場面で、10円硬貨、1円硬貨を組み合わせでちよ^うどの金額を用意している。(知識・技能) [観察]</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B 支払いの場面で10円硬貨、5円硬貨、1円硬貨を組み合わせでちよ^うどの金額を用意している。(知識・技能) [観察]</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・複数の種類の硬貨を組み合わせで、ちよ^うどの金額を用意している。(知識・技能) [観察]</p> </div>

全 (3)	6 ふりかえり ・プリントがんばりシートにシールを貼る。 7 終わりの挨拶をする。	・振り返りシートを使ってちょうどのお金で買い物をできた数と、指定された金種を使って買い物ができたことを振り返ってから、プリントがんばりシートにシールを貼る。 ・次の授業の説明をし、見通しをもつことができるようにする。 ・正しい姿勢で挨拶ができるように言葉かけをすることで、児童が学習の終わりを意識できるようにする。
----------	---	---

【板書計画】

11月26日(火)

今日の
学習

かいものをしよう

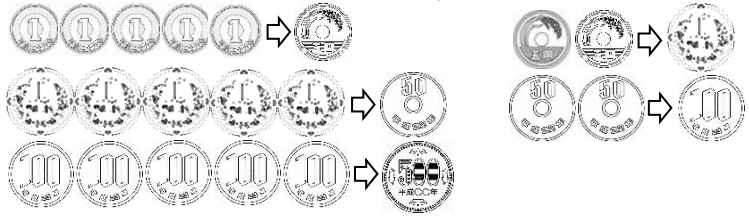
めあて

ちょうどのお金を出しておかいものをしよう！

- ① ウォーミングアップ
- ② みんなでやってみよう
- ③ かいものをしよう
- ④ ふりかえり

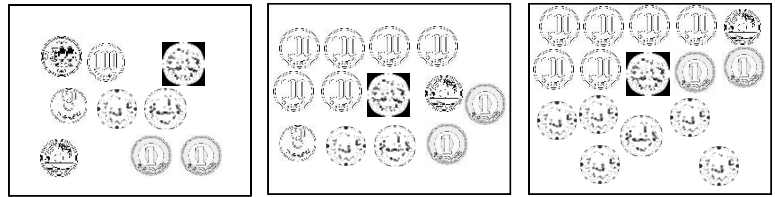
① ウォーミングアップ

～おかねをへんしんさせよう～



② みんなでやってみよう

～687円をたくさんつくろう～



【座席表(学習活動位置)】

